

地域ぐるみで取り組む在宅医療介護地域支えあい事業 ～「いつまでも自分らしく活躍できる『光齡社会』」を目指して～

地域医療連携推進法人 江津メディカルネットワーク
(島根県済生会江津総合病院地域医療連携室)

小原俊貴

2022年12月22日

病床の機能分化に向けた医療連携推進コーディネーター配置事業

2022年度～

目的 地域の病床機能分化の促進及び質の高い在宅医療提供体制の確保を図る。

事業内容

郡市医師会等に「医療連携推進コーディネーター」を配置

◆在宅医療の供給についての検討や、病院・行政等との各種調整を行う。



1 管轄保健所との定期的な意見交換（月1回程度）

- ◆地域の課題解決に多様な職域・立場・組織の関係者へのアプローチ実施。
- ◆地域の医療提供体制の現状把握（調査）
- ◆行政機関と取り組むべき事項や目指す方向性について共通認識を図る。

2 医師との対話を通じた課題把握

- ◆日々の業務の現状・課題・疑問・思い等把握。
- ◆郡市医師会理事会等へ参画し、課題の共有・意見交換を行い、目指す方向性の共通認識



3 圏域・市町単位での医療介護連携に向けた会議への参画

- ◆医療介護関係者へコーディネーターの役割・取組方針の報告を行い、理解協力を得る。
- ◆医療介護関係者を招集し、事業を効果的に展開するための会議体の設置運営

4 地域の医療介護資源の分析

- ◆限りある医療介護資源の効率的活用のため、関係機関の機能や課題を把握し共有する。

5 医師の在宅医療への取組促進に向けた環境づくり

- ◆在宅医療に取り組む医師の負担軽減や在宅医療についての相互理解



6 医師と他職種との連携強化

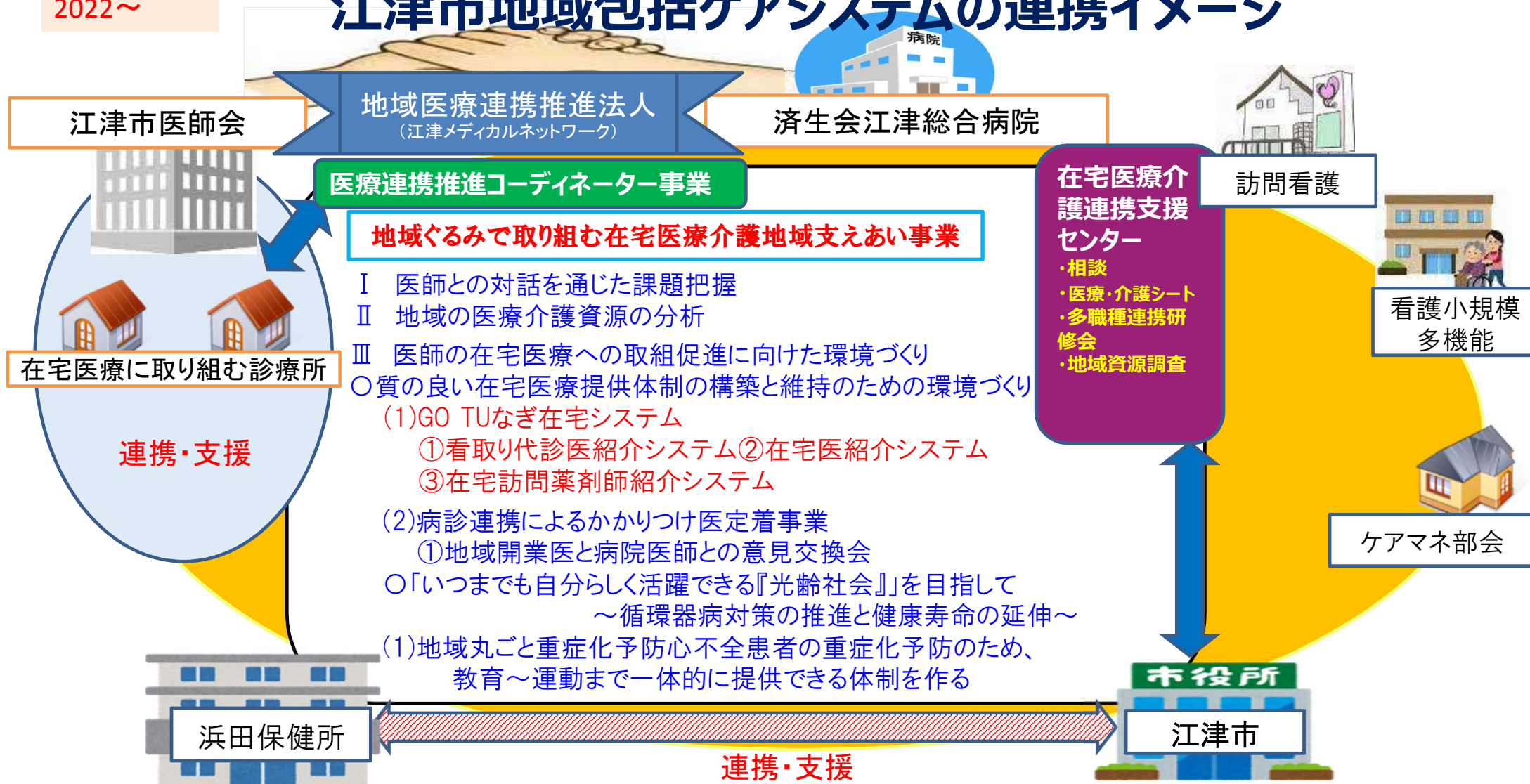
- ◆歯科医師・薬剤師・訪問看護師・リハ職・ケアマネ等との職場・職種の垣根を超えた連携体制の構築に資する取り組み在宅医療に取り組む医師の負担軽減や在宅医療についての相互理解

7 地域住民の理解促進

- ◆地域住民の在宅医療・介護連携の理解の促進
ACP住民向け講演会や地域の健康課題の要因分析や重症化・再発予防に向けた啓発

2022～

江津市地域包括ケアシステムの連携イメージ



2022年度の取組 (在宅医療介護地域支えあい事業)

【事業目的】

保健・医療・介護関係者が地域の課題について分析し、質の高い在宅医療介護の提供体制の構築と地域も巻き込んだ総合的な取組展開を図ることを目指す。

また、浜田圏域の急性期医療機関である済生会江津総合病院と浜田医療センターの2病院が地域の介護施設等と連携して圏域内でより良い在宅医療介護サービスを提供するための方策を検討する。

1 管轄保健所等との定期的な意見交換

(1) 保健所等との定期的な連絡会

江津市(健康医療対策課・地域包括支援センター)と保健所との意見交換・連絡会

2 医師との対話を通じた課題把握

コア会議・医師会理事会(最低2ヶ月に1回偶数月)、病診連携連絡協議会の開催

2022年度の取組
(在宅医療介護地域支えあい事業)

3 医療介護連携に向けた会議への参画等

- (1) 保健医療対策会議・医療介護連携部会・江津市在宅医療介護連携推進会議
- (2) 「在宅医療介護連携協議会」の開催
- (3) 浜田圏域2病院(浜田医療センター・済生会)と介護施設等との連携推進事業
 - ① EMITAS-G、介護保険データ、KDB及び済生会病院データなどの分析
 - ② 済生会3施設との検討会(月1回)
- (4) 地域医療連携推進法人メディカルネットワーク理事会(年2回)

4 地域の医療介護資源の分析

- (1) 地域の医療介護資源の分析
 - ① 関係機関機能情報調査(在宅・医療介護連携支援センター実施)の結果分析
 - ② 看取り件数と訪問診療件数調査
 - ③ 訪問看護指示書作成状況調査

2022年度の取組 (在宅医療介護地域支えあい事業)

5 医師の在宅医療への取組促進に向けた環境づくり

○質の良い在宅医療提供体制の構築と維持のための環境づくり

- (1) GOTUなぎ在宅システム・・・①看取り代診医紹介システム(土日運用)
②在宅医紹介システム ③在宅訪問薬剤師紹介システム
- (2) 病診連携によるかかりつけ医定着事業・・・地域開業医と病院医師との意見交換会
- (3) 症例検討会・・・地域開業医と病院医師
- (4) 情報連携による連携強化・・・①まめネット ②MCS ③Web会議やWeb研修会の開催

○「いつまでも自分らしく活躍できる『光齡社会』を目指して」

～循環器病対策の推進と健康寿命の延伸～

(1) 地域丸ごと重症化予防

江津市の健康づくり部門や地域の健康づくり推進会やケアマネ等と協働して循環器病対策の取り組み展開を図る。

心不全患者の重症化予防のため、教育から運動まで一体的に提供できる体制の構築。

2022年度の取組 (在宅医療介護地域支えあい事業)

- ①各種データ分析を行い、健康づくり部門や保健所との協議・検討会の開催
- ②「心不全ポイント」「生きいきポイント」の使い方のための研修会
- ③済生会病院で心大血管リハの導入
- ④心不全療養指導士、心リハ指導士の育成を行い、患者指導の充実を図る。
- ⑤出前講座(心不全の知識啓発・基礎疾患管理の重要性の啓発)
- ⑥心不全の重症化予防のための関係者教育



「大阪心不全地域医療連携の会(OSHEF)」の指導・助言を受け、心不全医療連携のステップアップ

6 医師と他職種との連携強化

(1)他職種連携による質の高い在宅医療提供体制の構築

- ①訪問看護師・訪問リハ・薬剤師と医師との意見交換会 ②多職種連携研修会
- ③介護施設職員と医師との意見交換会・研修会 ④訪看合同意見交換会 ⑤居宅介護支援事業所ヒアリング

7 地域住民への普及啓発

(1)市民啓発

- ①基礎疾患管理や健康づくりなどの啓発

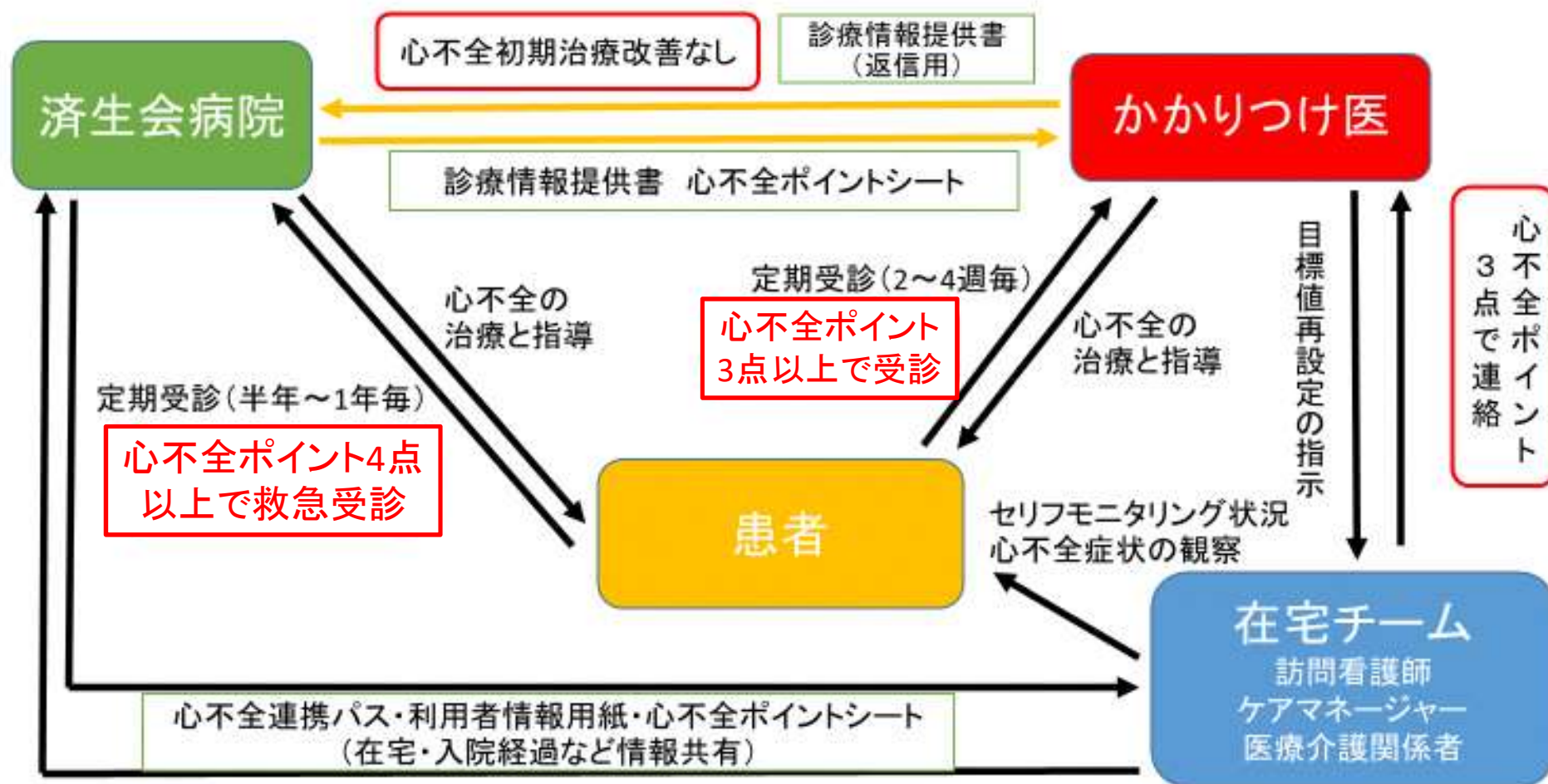
(2)医師と僧侶のコラボにより終活を学ぶ会(仮称)

モデル的に江津市の1地域で実施。講演会と意見交換会(全4回程度)

～心不全診療の地域での取り組み～

※当院循環器科・佐々木医師作成資料より抜粋

心不全患者の病診連携（イメージ図）



各種データ分析から

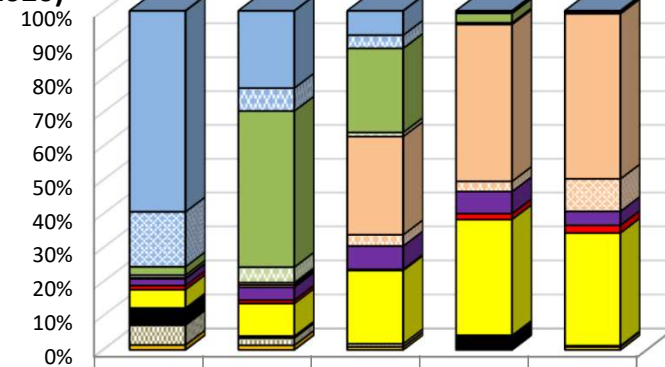
データ対象は国保・後期高齢者保険のみ

I EMITAS-G(医療・介護・健診総合分析ソリューション)データ

①各市町村別入院医療機関

- ・浜田市民は、浜田市内が75.6%、江津市は江津市内に50.7%、浜田市内に29.6%入院している。
- ・江津市の広島県への流出は2.1%、浜田市の広島県への流出は5.8%である。
- ・江津市の出雲への流出は、9.6%であり、2019年(11.1%)に比較して減少している。
- ・温泉津町民は、江津市内(済生会含む)・邑智郡が減少し、出雲・浜田(浜医含む)が増加している。
- ・旧大田市は2019年と比較して大田市立が増え、済生会が減少している。

入院流出(2020)



肺炎が一番

②江津市民が入院している疾患(全医療機関)

	2018年	人数	%		2019年	人数	%		2020年	人数	%
①	肺炎、急性気管支炎	189	9.0	①	肺炎、急性気管支炎	185	9.1	①	肺炎、急性気管支炎	127	6.8
②	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良性疾患)	101	4.8	②	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良性疾患)	95	4.7	②	心不全	100	5.3
③	脳梗塞	97	4.6	③	脳梗塞	91	4.5	③	脳梗塞	79	4.2
④	心不全	94	4.5	④	心不全	90	4.4	④	認知症	68	3.6
⑤	白内障、水晶体の疾患	76	3.6	⑤	腎臓または尿路の感染症	73	3.6	⑤	股関節大腿近位骨折	66	3.5

	浜田市	江津市	温泉津町	仁摩町	旧大田市
■ 浜田医療センター	59.4%	22.8%	7.2%	0.3%	0.2%
■ 浜田市内(浜医除く)	16.2%	6.8%	3.9%	0.5%	0.2%
■ 済生会	2.5%	46.1%	24.9%	2.8%	0.3%
■ 江津市内(済生会除く)	0.8%	4.6%	1.2%	0.5%	0.3%
■ 大田市立	0.1%	0.7%	29.0%	46.4%	48.7%
■ 大田市	0.2%	0.7%	3.3%	3.0%	9.6%
■ 邑智郡	2.0%	3.8%	6.9%	6.5%	4.1%
■ 松江	1.2%	1.0%	0.3%	1.8%	2.3%
■ 出雲	5.4%	9.6%	21.6%	34.1%	33.1%
■ 益田	5.0%	0.6%	0.0%	3.5%	0.0%
■ 広島県	5.8%	2.1%	0.9%	0.5%	0.3%
■ その他県外	1.4%	1.4%	0.9%	0.3%	0.9%

各種データ分析から

データ対象は国保・後期高齢者保険のみ

③江津市民が浜田医療センターに入院している疾患

2018年	人数	%	2019年	人数	%	2020年	人数	%
①胆管（肝内外）、結石、胆管炎	41	8.1	①肺炎、急性気管支炎	34	6.6	①胆管（肝内外）、結石、胆管炎	32	6.6
②胃の悪性腫瘍	29	5.7	②胆管（肝内外）、結石、胆管炎	31	6.0	②胃の悪性腫瘍	32	6.6
③肺炎、急性気管支炎	26	5.1	③胃の悪性腫瘍	29	5.6	③肺の悪性腫瘍	26	5.4
④狭心症、慢性虚血性心疾患	23	4.5	④脳梗塞	27	5.2	④狭心症、慢性虚血性心疾患	22	4.5
⑤脳梗塞	20	3.9	⑤股関節大腿近位骨折	15	2.9	⑤前立腺の悪性腫瘍	22	4.5

胆管結石・胆管炎や悪性腫瘍が多い。

④江津市民が浜田医療センターに通院している疾患

2018年	人数	%	1人あたり医療費	2019年	人数	%	1人あたり医療費	2018年	人数	%	1人あたり医療費
①脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）	98	5.0	45,844	①前立腺肥大症等	113	5.5	39,970	①前立腺肥大症等	114	6.2	57,227
②前立腺肥大症等	95	4.8	37,297	②乳房の悪性腫瘍	105	5.1	88,446	②乳房の悪性腫瘍	90	4.9	105,913
③乳房の悪性腫瘍	91	4.6	95,679	③肺の悪性腫瘍	102	5.0	81,608	③肺の悪性腫瘍	89	4.8	128,441
④肺の悪性腫瘍	89	4.5	126,452	④脊椎間狭窄	86	4.2	40,618	④脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）	73	4.0	50,496
⑤脳梗塞	64	3.3	29,254	⑤大腸（上行結腸からS状結腸）	73	3.6	60,430	⑤大腸（上行結腸からS状結腸）	65	3.5	52,977

前立腺肥大症と悪性腫瘍が多い（浜田医療センターは地域がん診療拠点病院）。

各種データ分析から

Ⅱ 済生会江津総合病院の入院患者分析(2021.1.1～12.31まで)

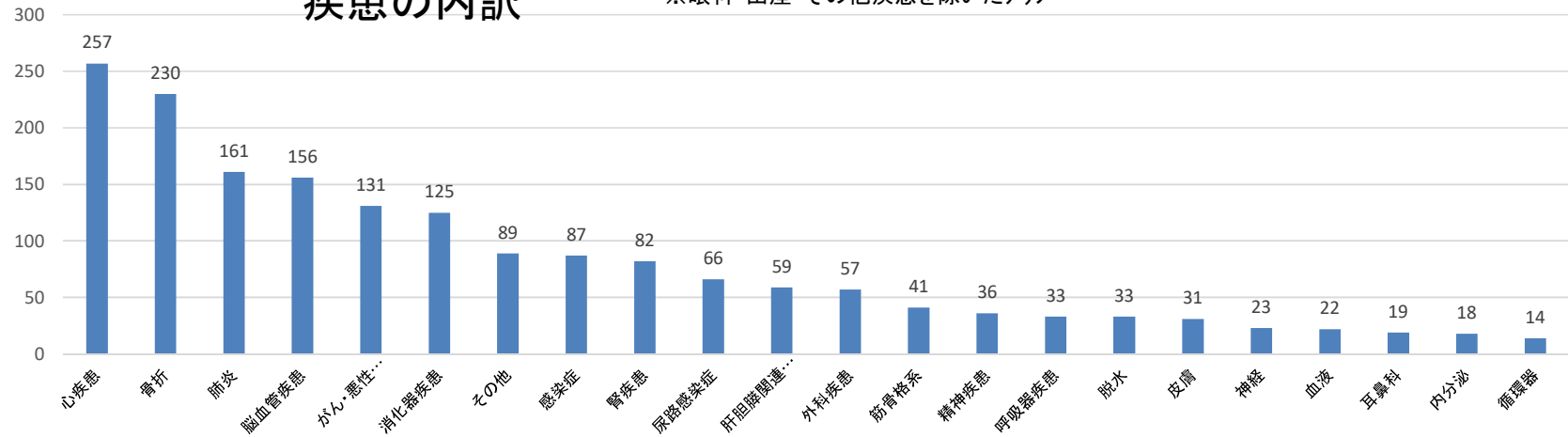
期間中入院した
総数2,023人

①主な入院疾病

①心疾患 ②骨折 ③肺炎

疾患の内訳

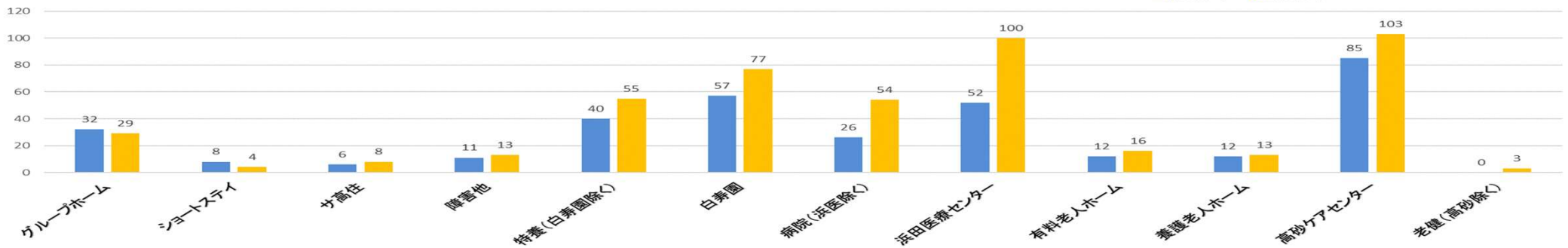
※眼科・出産・その他疾患を除いたグラフ



②主な入院経路 (2年間比較)

入院経路別患者数

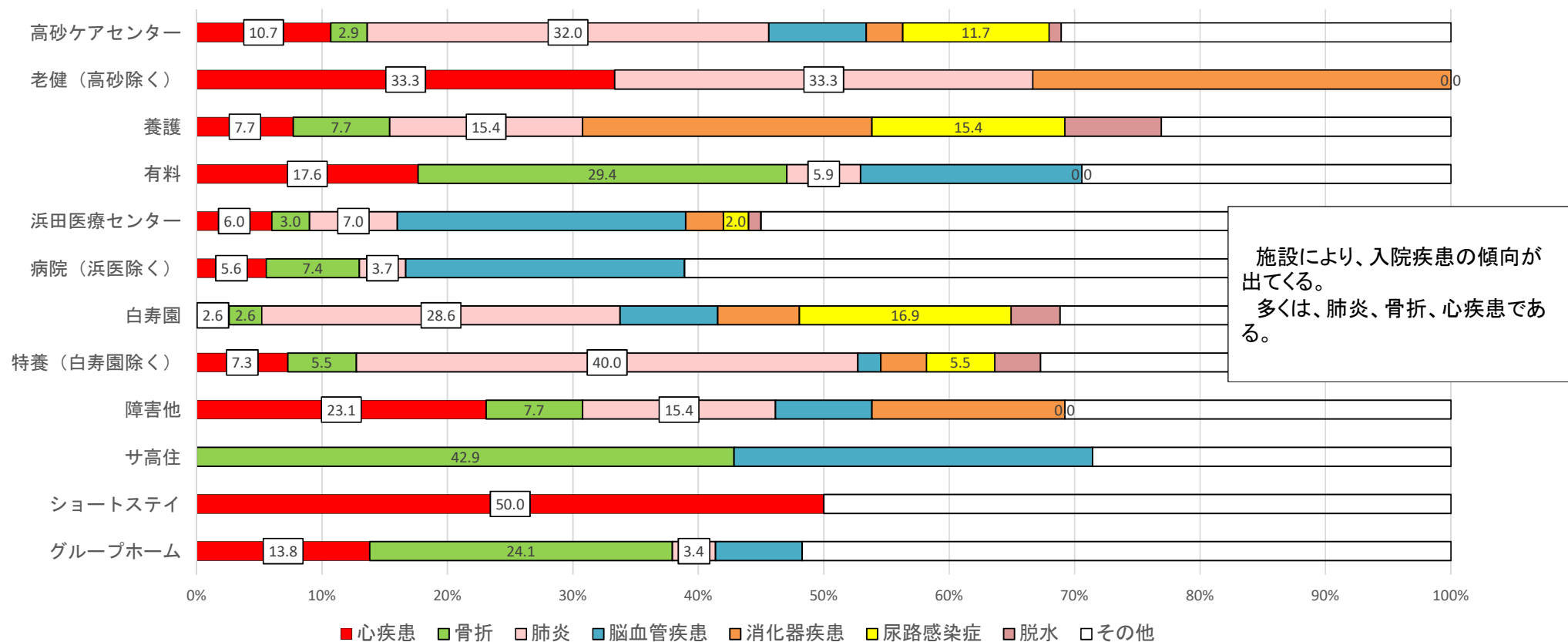
■ 2020年 ■ 2021年



各種データ分析から

③入院経路別主な入院疾患

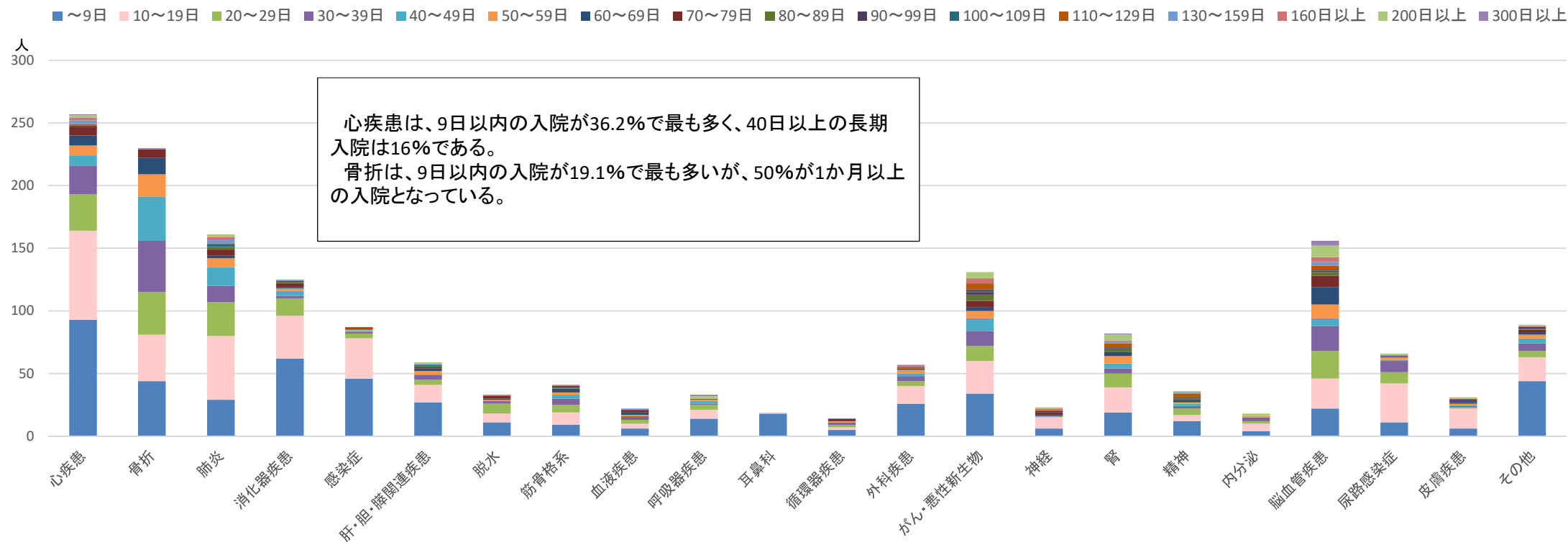
入院経路別主要疾患



各種データ分析から

③疾患別在院日数

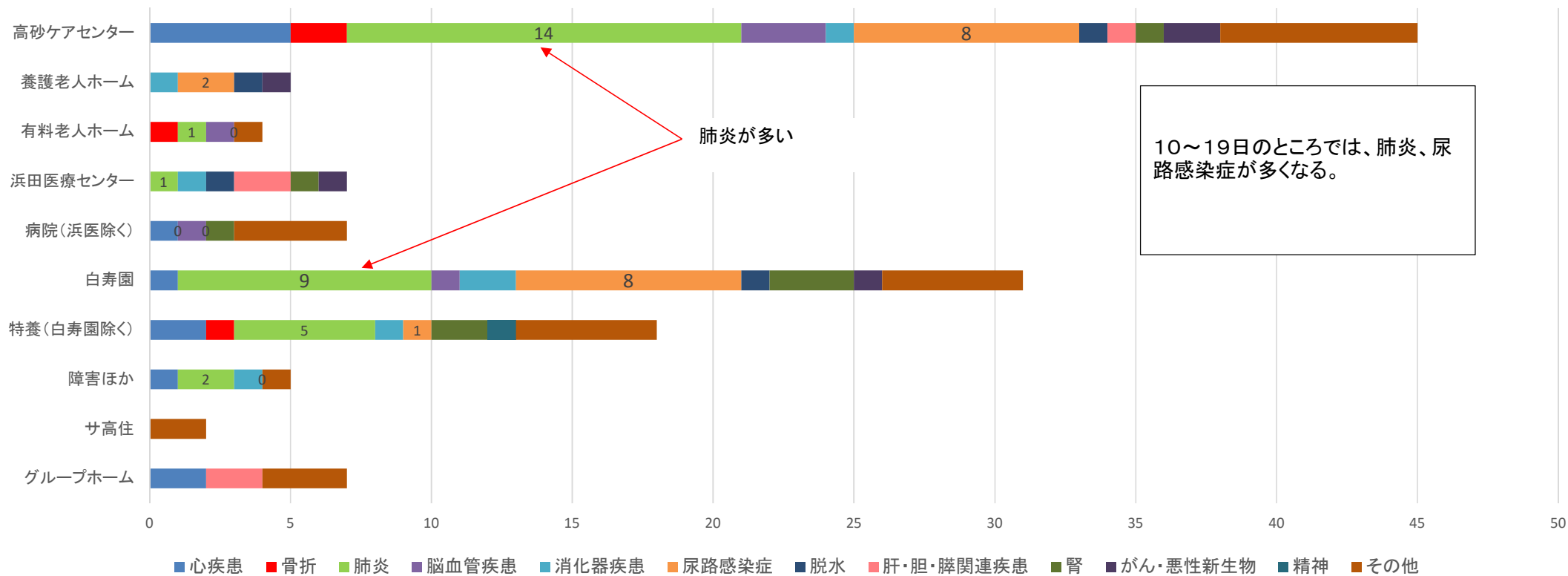
疾患別在院日数



各種データ分析から

④入院経路別疾病(在院日数10~19日)

入院経路別疾病(在院日数10～19日)



5/24地域開業医向けMCS(メディカルケアステーション)勉強会

日時：2022年5月24日（火）19時00分～20時00分

場所：江津市医師会館

売り：エンブレース株式会社が提供する医療介護従事者専用コミュニケーションツールMCS（メディカルケアステーション）を活用することで、医療介護関係者と秘匿性が高く迅速なやり取りが出来る。まずは地域開業医に向けてMCSについて知っていただき導入検討する機会とした。



MedicalCare STATION



【成果・課題】

- ・江津市医師会（会長、副会長、理事、事務長）に向けて、株式会社スズケンより、多職種連携のための完全非公開型ツーMCS(メディカルケアステーション)についてWEB説明会を実施。
 - ・実際の操作方法や活用するメリットについてスライドを使用しながら話をうかがった。
 - ・参加された先生方からは、パソコンのメールアドレスで登録すると、着信通知がMCS以外の着信通知と一緒にになってしまうがどうしたら良いかと具体的な質問あり。
- 別アカウントを使用することやスマホアカウントでの登録をすることで回避可能であるとスズケン側より提案あり。
- ・質疑応答をする中で、先生方からは『まずは実際に使用してみよう』と導入に向けて前向きなご意見をいただいた。

【今後に向けて】

まずは、先生方と個別にグループを作成して試験運用を行う予定。

その中で改善点や課題など出てくれば都度協議を行っていく。

当院リハ科のスタッフも活用している。訪問リハの対象者を中心に情報共有を図っている。

5/30大阪心不全地域医療連携の会とのハートノート導入勉強会

日時：2022年5月30日（月）17時30分～18時30分

場所：済生会江津総合病院2階講堂(WEB開催)

趣旨：心不全患者を地域全体で継続的にサポートするための体制整備を行い、地域を巻き込んだ連携の中で、医療と介護の共通言語として心不全ポイントの普及啓発を先進的に行っている大阪心不全地域医療連携の会と勉強会を実施した。



【成果・課題】

- ・院長をはじめとする循環器科医師、看護部、リハ科、事務、訪問、保健所、地域包括支援センターなどWEB参加者もあわせて総勢50名が参加した。

- ・北野病院 中根先生より、共通言語化のための2つのツール「ハートノート」「心不全ポイント自己管理用紙」の導入方法や活用事例について講演をいただき、当院をはじめとした地域での普及啓発の重要性を認識した。

- ・高齢心不全患者に対する取り組みについて、要点を以下のとおり。

☆心不全悪化の早期発見、早期治療介入を行うことで再入院を防止する

☆非専門職との連携には共通言語で運用する事が必要

☆運用には、関わる人々への教育が必要

☆現在、病院や大学の枠組みを超えて共通の心不全管理システム作りを目指し取り組んでいる

- ・心不全ポイントを開始するには、まずは導入しやすい患者から始めること、とりあえず一歩を踏み出すことが大切であるとお話があった。

【今後に向けて】

江津市内でのハートノート導入に向けて、大阪心不全地域医療連携の会の助言・支援を受けながら引き続き協議を行っていく。

5/16～6/6 地域開業医ヒアリング調査

期間：2022年5月16日（月）～6月6日（月）

対象：江津市内開業医

売り：江津市内におけるより良い地域医療連携体制の構築に向けた取り組みの一環として、

市内の病院医科診療所の現状や意見を伺うことで、今後の病診連携の基礎材料として活用する。また、医療連携推進コーディネーター事業に関する業務評価を行うとともに当院の課題を明らかにし、業務改善に努めることを目的とする。



【成果・課題】

- ・5/16～6/6地域開業医へのヒアリング調査を訪問とWEBにて実施。

- ・**当院からの入退院報告書については、概ね適切な時期に届いており助かっているとお言葉をいただいた。**

- ・救急外来や発熱外来での対応について、接遇面や患者への説明不足について指摘あり。院内ルールを再度確認して、後日あらためて報告させていただくこととした。

- ・症例検討会を再開してほしい、意見交換会を定期的で開催してほしいと要望あり。

- ・開業医から紹介された患者の情報提供依頼の意見が出たが、これは今年度4月に様式を作成し依頼出来るようになっているので理事会でも再度説明させていただくこととした。

- ・**医療連携推進コーディネーターについては必要な職責と部署であり、今後も継続してほしい。**

【今後に向けて】

今回のヒアリング結果については、後日まとめて別途協議していく予定。コア会議、理事会を経て医師会員へ報告する予定。

7/19地域開業医と病院看護師との意見交換・勉強会

期間：2022年7月19日（火）19時00分～20時00分

対象：江津市医師会員、須田医院、浜田保健所

目的：心不全悪化の早期発見、早期治療介入を行うことで再入院を防止することが大切であり、そのためには共通言語を利用して、専門職だけでなく非専門職との連携を図ることが大切である。今回は、共通言語の活用方法について相互理解を深め、当院での心不全連携パスの運用について江津市医師会員に周知して、今後の運用方法について意見交換を行う。

【成果・課題】

- ・当院の心不全地域連携パスの今後の運用方法について説明を行った。
- ・能美先生、花田有二先生をはじめ、医師会員の先生方にもご参加いただき、総勢30名以上が参加。
- ・質疑応答では、「心不全ポイントの設定方法は？」「心リハの場合、負荷試験の結果が分かるとよい」「診療情報提供書の返信について、データーを簡単に書き込めるシートだとより連携がしやすい」など先生方からご意見やご要望をいただいた。
- ・心不全ポイント活用のための標準体重の設定方法が難しいとの意見があった。

【今後に向けて】

- ・引き続き、当院循環器科医師を中心に心不全ポイントの活用方法や、地域連携パスの運用方法について協議を行っていく。
- ・今回、参加が出来なかった医師会員や看護師が視聴していただけるように、希望者にはレコーディングした勉強会内容を後日視聴していただけるよう案内していく。



7/28心不全地域連携パスについての勉強会

期間：2022年7月28日（木）13時30分～14時30分、17時30分～18時30分

対象：市内医療介護関係者、診療所スタッフ、済生会病院職員等（ハイブリッド開催）

目的：心不全の重症化予防には、地域で関わる全職種が共通言語を知り、心不全の増悪を早期発見し、受診行動をとることが大事である。当院では、心不全地域連携パスを作成しており、地域全体で重症化予防、病診連携に取り組みたいと考えている。また、運動耐容能を評価し、継続した疾患管理が行えるように8月の心臓リハビリテーション運用に向け準備している。

今回、市内の医療介護関係者、診療所のスタッフのみなさまに向けて、心不全地域連携パスの運用と心臓リハビリテーション開始についての説明会を開催した。

【成果・課題】

- ・時間帯を2つに分けて、会場参加とWeb参加のハイブリッド形式で開催。総勢100人以上が参加した。
- ・内容が多かったため、何回かに分けてシリーズ化してほしいという意見あり。
- ・だれが、いつ、どの部分を担うのかわかりにくかったという意見もいただいた。
- ・心不全ポイントについては、今後の活用が期待される内容だった、**地域を通して1人の心不全患者さんを見ることができ良い取り組みだと感じた**、たくさんの施設が利用できると良いといった肯定的な意見も寄せられた。
- ・また、地域のかかりつけ医との関係はどのように進めるのか、かかりつけ医から心不全ポイントを確認することは可能か、外来の心臓リハビリの流れはどうなるかなど、質問も多数寄せられた。

【今後に向けて】

- ・勉強会終了時にアンケート記入を依頼している。
- ・アンケートに記入していただいた内容については、後日一問一答形式で結果をとりまとめる予定。
- ・院内でも引き続き、当院循環器科医師と中心に心不全地域連携パスの本格運用に向けて協議して



8/8在宅療養における薬剤師との意見交換会

期間：2022年8月8日（月）19時00分～20時00分（Web開催）

対象：江津市内薬剤師

目的：在宅で療養する患者は、認知機能や身体機能の低下に伴い薬の管理が難しい、服薬が難しい、また、複数の医療機関を受診し、複数の薬を内服しているなど薬に関する問題を多く抱えている。

このような状況の中、薬剤師の果たす役割は大きく、薬剤師が在宅医療に参加することで、患者の療養上の課題解決や生活の質を高めることにつながっている。

しかしながら、現場では、訪問してくださる薬剤師を探すことが困難の状況と訪問したくても声がかからないという状況のミスマッチが起きている。

そこで、今回は新しく「在宅訪問薬剤師紹介システム（仮称）」について、意見交換し、運用に向けて検討する場とした。

【成果・課題】

・5ヶ所の薬局、7名の薬剤師の先生方にご参加いただいた。

・「在宅訪問薬剤師紹介システム」については、薬剤師ごとの登録ではなく薬局ごとの登録にした方がいいとご意見をいただいた。

・訪問受け入れできるキャパについては、処方内容や訪問するエリア（距離）によって異なるため一概に何人とは答えづらい。

・薬の使用方法については、疑義照会など病院薬剤師に問合せをしている。今のところ医師との意見交換の希望はないが、あればいいと思う。

・「在宅訪問薬剤師紹介システム」は非常に良い取り組みだと思う。運用に向けては、個別に薬剤師に紹介しなくてもよい。

まずは趣旨に賛同する薬剤師（薬局）から始めて、実際に運用する中でシステムの見直しや変更を行ってほしい。

【今後に向けて】

・まずは登録を希望される薬剤師（薬局）から運用を開始する方針とした。様式等、ご意見をいただいた部分を修正したものを後日薬局に送付する。



8/29薬剤師と心不全地域連携パスの勉強会

期間：2022年8月29日（月）19時00分～20時30分（Web開催）

対象：江津市内薬剤師

目的：心不全悪化の早期発見、早期治療介入を行うことで再入院を防止することが大切であり、そのためには共通言語を利用して、専門職だけでなく非専門職との連携を図ることが大切である。薬剤師の先生方も、患者さまと接する中で心不全予防について勉強をしたいという思いがあることを意見交換の中でお聞きした。そこで、先日行った当院の心不全地域連携パスの説明会の様子を動画視聴していただき、それを踏まえて意見交換をする場を開催した。

【成果・課題】

・Web開催とし、先日行った心不全地域連携パスの説明会の様子を動画視聴していただいた。その後、意見交換を行った。

《ご意見》

・また今後も進捗があれば情報共有をお願いします。

・患者さんから数値などの情報提供が無いことが多く、お薬手帳など提示してくれるものに情報が記載してあると状態を確認しやすい。

・お薬手帳に退院時の情報を貼っている病院もあるので、患者の同意を得ることが出来たら、ワリなどシールで貼ってあると情報提供しやすく薬局側も受けやすくなるのではないかと思う。

・心不全は薬局には持参しない方もいらっしゃるなので、薬局に持参しやすい手帳に書いてあると把握しやすくなるのでは。

【今後に向けて】

・いただいた意見について、院内で協議を行い、運用できるものについては情報発信をしていく。

・薬剤師の先生方も心不全について関心が高い。引き続き、勉強会や意見交換会についてアナウンスしていく。



取組の成果と今後の方向性(1)

- ① 「病院医師と地域開業医との意見交換会」「訪問看護師・訪リハ・薬剤師と医師との意見交換会」等を積み重ねることで、**情報共有の在り方、情報連携の大切さ、顔の見える関係づくりの重要性が共有化された。**
- ② 「看取り代診医紹介システム」「在宅医紹介システム」「在宅訪問薬剤師紹介システム」の創設により、訪問診療医の**負担軽減、24時間体制への負担軽減**につながっている。
- ③ 研修医や医大生の地域医療実習で地域開業医の先生方に外来診療、訪問診療、施設への訪問などほぼ毎日のように受け入れしていただいた。**「済生会を支える」「医師の人材育成に貢献しよう」という気持ちがひしひしと伝わる。**

取組の成果と今後の方向性(2)

- ④ データ分析の結果、「江津市における循環器病対策の必要性」が継続的な課題であることに変化なし。国や県の「循環器病対策推進計画」の施策の方向性に沿った取り組み展開できるような位置づけを。

→ 「元気！勇気！感動！ごうつ 多職種連携(医療・介護他)と地域ぐるみで取り組む『いつまでも自分らしく活躍できる光齡社会』を目指して」事業の展開を進める。

この事業は、地域ぐるみ(地域も行政も)で医療も介護も循環器病対策に取り組む江津市にしようという趣旨である。

- ⑤ 心不全の重症化予防のためにも、「教育・運動・治療」そして地域との連携が取れるような体制整備。